

株主メモ

事業年度	毎年7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	毎年9月に開催
配当金受領株主確定日	毎年6月30日 中間配当金を支払うときは毎年12月31日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	大阪証券取引所 ジャスダック市場
公告掲載新聞	日本経済新聞

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



アトムリビンテック株式会社

〒110-8680 東京都台東区入谷1-27-4 TEL 03(3876)0600(大代表)
ホームページ <http://www.atomlt.com/>



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。



ATOM

IR NEWS

第58期 中間報告書

平成23年7月1日～平成23年12月31日

経営理念

「住まいの飾り職人」が作り出す
独創的な商品で、
社会の発展に貢献します

社訓

「独り歩きのできる商品づくり」

社是

「創意・誠実・進取」

社名の由来

創業者は江戸指物（鏡台、茶箆筒、長火鉢等）の金具職人、即ち繊細な装飾と微妙な細工の技術を要する鋳職でした。

社訓は、創業者の遺した言葉に基づくものであります。

「独り歩きのできる商品」とは、販売に際して、巧言令色や誇大な表現を添えずとも「ひと目でその価値が相手に伝わる商品」を指します。

当社の社是は、ご覧の通りですが、企画開発を旨とする企業として「創意・進取」は元より、独り歩きのできる商品であればこそ、販売に際して「誠実」が貫き得ると考えております。

また社名の冒頭に冠した「アトム」は設立以来の商標であり、内装金物の分野で、業歴相応の認知と浸透を得ております。

以下に続く「リビングテック」には、ご説明の要も無い「リビングテック」の他に、まさしく「技術に生きる＝リブ・イン・テック」の意味が籠められており、併もその技術とは、当社がファブレスメーカーであるだけに、単なるハードウェアのみならず、ソフトウェアをも包含する「ノウハウのメーカー」であり続けたいという思いを表しております。

株主の皆様へ

第58期第2四半期累計期間の業績をご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当社「第58期中間報告書」をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

当第2四半期累計期間（中間期）において、当社が関連する住宅市場は、さまざまな住宅取得支援制度を背景に、新設住宅着工戸数に緩やかな持ち直しの動きが見られたものの、需要を牽引してきた住宅版エコポイント制度の打ち切りやフラット35Sの終了を控えて、消費マインドは低下傾向を示し、総じて本格的な回復には至らないままに推移いたしました。

こうした状況のもと、住宅関連市場に位置する当社は、真摯に日常業務に取り組むことこそが東日本大震災からの復興支援であるとの観点に立ち、「本業に徹する」を第58期の経営スローガンに掲げ、社員一人ひとりがそれぞれの持ち場で最善の努力を重ねてまいりました。また併せて、当社が長年の事業活動で培ってきた市場価格形成力を背景に、販売費および一般管理費の圧縮など、経営上の自助努力をも重ねるとともに、昨年10月には、東京の「アトムCSタワー」および大阪の「アトム住まいの金物ギャラリー」の2拠点で「秋の内覧会」を開催するなど、積極的な商品展開と販路拡大に取り組んでまいりました。

こうした取り組みの結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高36億44百万円（前年同期比6.4%増）、営業利益1億41百万円（前年同期比309.4%増）、経常利益1億75百万円（前年同期比178.3%増）、四半期純利益2億1百万円（前年同期比235.6%増）となりました。

当社では、第58期が第7次中期経営計画の最終年度にあたることから、より一層、組織の活性化を図りつつ、柔軟かつ機動的な経営体制の構築を目指してまいります。また、「アトムCSタワー」を拠点に、住生活に関わるイベントやセミナーを開催するなど、積極的な活動を展開し、新規事業と既存事業のさらなる相乗効果の実現に取り組んでまいります。

平成24年3月



代表取締役社長 高橋良一

「本業に徹する」を経営スローガンに、基本に忠実な事業展開を行い、将来に向けての投資を図る経営基盤の構築に努めてまいりました。

Q これまでの取り組みについてお聞かせください。

A 新商品の開発強化に取り組むとともに、市場の拡大に注力してまいりました。

東日本大震災の影響が不透明なまま第58期を迎えたわけですが、当社としては住宅関連産業の一員として「本業に徹する」ことがいち早い復興に寄与するとの考えから、社訓であります「独り歩きのできる商品づくり」を具現化すべく、基本に忠実な事業展開を行ってまいりました。

商品戦略においては、ソフトクローズのトップメーカーとして、商品群の開発強化と市場における認知度向上に努めてまいりました。とりわけソフトクローズ関連商品の需要が本格化しつつある昨今、追従するメーカーを凌駕できるような機能性の強化に努め、差別化を図る商品展開に力を入れてきました。また、前期より進めてまいりました商品構成の再構築については、当初の意図通りに進捗しつつあります。お客様からは、もっと絞り込んでほしい、もっとわかりやすい形にしてほしいといったご要望も寄せられるなど、シリーズ商品の集約化については市場に受け入れていただけたものと思っています。こうした取り組みを進める一方、上海阿童木建材材商貿有限公司を活用した海外生産品の安定供給に努めるとともに、国内生産品の購買改善など、原価低減に向けた取り組みを行ってまいりました。

市場戦略では、「アトムCSタワー」において異分野・異業種の皆様との協働によるさまざまなイベントやセミナーを開催してまいりました。おかげさまで、昨年は7,300人も

の皆様にお越しいただき、当社が住生活の一翼を担う企業であることをご理解いただけたのではないかと考えております。こうしたこともあり、もっと多くのお客様に「アトムCSタワー」を活用していただきたいとの願いを込めて、昨年7月からは新たに第1および第3土曜日をオープンいたしました。また、当社独自のヒット商品となりつつあるソフトクローズ関連商品等をより良くご理解いただくため、当社ホームページで動画配信を開始いたしました。

情報システム戦略については、IT関連システムの見直しを進め、顧客サービスの向上と経費の削減、業務の簡素化を図るため、効率的な帳票管理システムを導入いたしました。加えて当期においては、事業環境の変化に対応するためのシステムの見直しも進めております。

Q 当第2四半期累計期間の業績をどのように評価されていますか。

A これまでの地道な努力が開花して、相応の業績を確保することができました。

この間の住宅関連市場で特徴的なことは、事業の対象となるお客様や地域、販売ルートなどの違いによって、企業間格差が鮮明になってきたことです。これまで当社は、ハウスメーカー様や住設機器メーカー様など直接取引のあるお客様をはじめ、卸ルートにおけるお客様など、全国的規模で幅広い分野のお客様と、長年にわたり信頼感のあるお付き合いをさせていただいてまいりました。こうした全方位での営業展開が、回復の兆しを見せつつある住宅市場の

流れを捉え、期初の目標以上の業績を上げることができた大きな要因であると考えています。また、ソフトクローズ関連商品に象徴される新商品や技術開発が市場で認知され、開花した点も要因としてあげることができます。加えて、既存市場を含め、営業面で地道な努力を続けてきたことが奏功し、より大きな相乗効果があげられたものと思います。

こうした成果を踏まえて、第2四半期累計期間の業績は今後の事業展開に弾みをつける内容であったと評価しております。

Q 中長期的観点から見た経営課題についてお聞かせください。

A 迅速かつ実効性のある商品開発の仕組みづくりが求められています。

当第58期は第7次中期経営計画の最終年度にあたりますが、この間の取り組みにより、第7次中期経営計画の目標に掲げた「伝統と変革の調和的融合」の具現化に向けて大きく前進することができました。中でも、ソフトクローズ関連商品のヒットは、今後の商品開発のあり方を考える上で重要な役割を果たしました。当社では、2010年7月から、より市場ニーズに合致した商品開発を機動的に行うという考えの下、経験豊かな開発要員によって構成される「営業設計グループ」を営業本部直轄で立ち上げ、積極的な開発活動を展開してまいりました。一口に商品開発といっても、試験研究、品質管理の遂行、工業所有権の調査・確認といった基礎技術にはじまり、現実の商品開発・設計に至るまで、その作業は多岐にわたる内容を含んでいます。これまで当社の商品開発は、どち

らかといえ基礎固めに注力する傾向があった面は否めません。企画開発型企業として市場に受け入れられる商品を生み出すために、基礎的な研究と現実的な商品開発・設計とを区分けし、商品開発の仕組み自体を組み替えていく必要性を痛切に感じています。今後とも、必要な人材を営業設計グループに投入し、より迅速かつ実効性のある商品開発に取り組んでまいりたいと考えています。

Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A 本来の企画開発型企業として新技術、新商品の創出を追求してまいります。

第7次中期経営計画では、厳しい経営環境に即応できる経営体制の強化を目指し、経営組織の改革による次代に向けた基盤の構築を基本方針として、新規事業と既存事業との相乗効果を図るさまざまな事業展開を行ってまいりました。現時点における当社の総合的な力量を勘案した場合、当期の業績をスタートラインとして、将来に向けてのさらなる投資を実行できるような基盤作りが今後の課題となってまいります。きたる第59期からは第8次中期経営計画がスタートいたしますが、その半ばで第60期を迎えることとなります。この第60期は、創業110周年、法人改組60周年という節目の年度でもあり、第8次中期経営計画では、本来の企画開発型企業としての新技術の開発、新商品の開発を徹底して追求すべく、これまで以上に力を注いでまいりたいと考えております。

なお、株主の皆様のご支援にお応えし、第2四半期累計期間におきまして10円、通期では20円の配当を今後も維持すべく、より一層、株主価値の向上に努めてまいります。株主の皆様におかれましては、今後とも当社の経営理念と経営方針に対するご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ソフトクローズシリーズを中心に「秋の内覧会」を開催いたしました。

当社の「顔」として定着した年2回のセールスプロモーション・イベント「秋の内覧会」と「春の新作発表会」。昨年10月、東京と大阪で開催いたしました「2011秋の内覧会」では、ますます注目度が高まっている引戸ソフトクローズシリーズを中心に、新製品や提案品をご覧ください。

今回の「秋の内覧会」では、ソフトクローズのトップメーカーとして、豊富なバリエーションのソフトクローズシリーズを展示いたしました。ソフトクローズとは、戸が閉まる手前でクローズ機構が働き、閉まり際の動きを緩やかにし、静かにゆっくりと閉じる機能です。当社は、いち早くこの機構に着目し、市場に先行する形で製品化を進めてまいりました。

これまでも当社は、引戸関連の金物を数多く販売してまいりました。日本の伝統的な襖文化を受け継ぐ引戸には、居住スペースを有効活用できる、TPOに応じた間仕切りができる、高气密・高断熱の不便さを解消する空気の流れをもたらすなど、さまざまな利点があり、近年、日本はもとより海外においても引戸の利便性が見直されてきました。ソフトクローズには、従来の引戸で課題となっていた指ばさみの防止、戸の開閉で発生する騒音の解消、建具にかかる負荷の軽減などの、さまざまなメリットがあります。今後も当社では、より快適でより安全な住まいを求める市場のニーズに応え得る「ソフトクローズシリーズ」の展開に力を入れてまいります。



大阪会場
OSAKA



東京会場
TOKYO



SD重畳用上吊引戸ソフトクローズ
2012年春頃の製品化を予定



上吊運動引戸シンクロユニットにソフトクローズを使用した提案展示

「住空間創造企業」としての視点から、引き続き震災復興支援に取り組みました。

昨年3月11日に発生した東日本大震災以来、住宅関連産業に位置する当社は、「住空間創造企業」としての視点から、多様な震災復興支援に取り組んでまいりました。

昨年6月から7月にかけて開催いたしました「東北炎の作家復興支援展示会」は、日本各地はもとより、英国でも開催されるなど多くの反響を呼びました。当社といたしましては、引き続き無期限の支援プロジェクトとして「東北炎の作家復興支援」活動に取り組んでまいります。

また「被災地の子どもたちに夏休みを」を合言葉に、トルコ・セフェリヒサル市で夏休みを過ごす被災地の子供支援活動「こんにちは・メルハバプロジェクト」の主催者であるチッタスロー・ジャパン準備局の活動拠点として「アトムCSタワー」を提供いたしております。今後とも、当社では、

●東北炎の作家展示会



震災によって崩壊した家の様子

●被災地子供支援活動／こんにちは・メルハバプロジェクト



プロジェクト運営：(株)ポステルス

これからの被災地支援活動とスローライフの実現を推進するチッタスロー・ジャパンの啓蒙活動をサポートしてまいります。

一方、ひまわりを復興と平和のシンボルとし、原発事故による汚染からの回復をみんなで考えるきっかけとする福島復興支援「スマイル・ひまわり」の活動の一環として、「アトムCSタワー」では屋上の一角に巨大ひまわり「ムーン・ツリー」を植え、お客様とともに成長を見守ってきました。さらに昨年9月には、華道家の前野博紀さん、茶道家の堀内ギシオさんら多彩なゲストをお迎えし、ひまわりの装花やお茶のお点前、ひまわりをテーマにしたお料理を振る舞うなど、福島復興支援イベント「月木夜～ひまわり作戦～」を開催いたしました。

当社は「住空間創造企業」ならばこそその視点から、震災復興支援活動を積極的に推進してまいります。

●「月木夜～ひまわり作戦～」



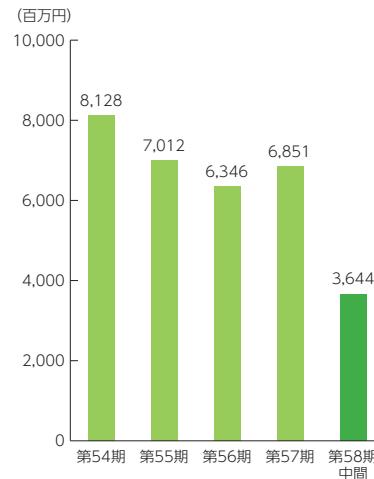
主催：TOKYOえこ・にわ



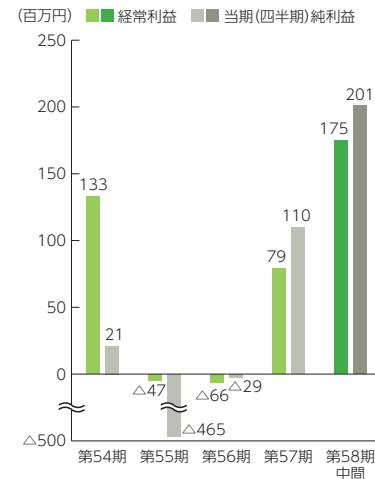
●福島復興支援
／スマイル・ひまわり
主催：TOKYOえこ・にわ
協力：宇宙農業サロン

業績の推移

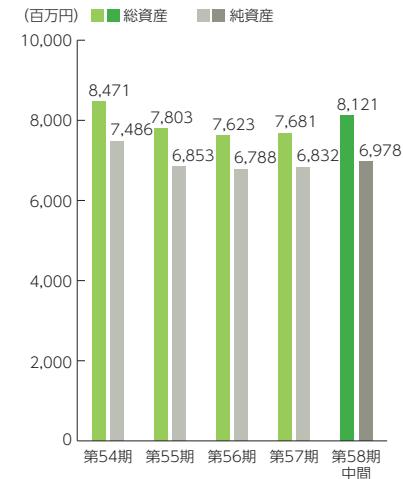
● 売上高



● 経常利益／当期(四半期)純利益



● 総資産／純資産



● 主要経営指標

	第54期	第55期	第56期	第57期	第58期中間
売上高営業利益率 (%)	0.3	△1.6	△2.0	0.6	3.9
総資本営業利益率 [ROA] (%)	0.2	△1.3	△1.6	0.5	1.8
自己資本利益率 [ROE] (%)	0.3	△6.5	△0.4	1.6	2.9
流動比率 (%)	736.4	714.8	938.2	815.6	573.5
固定比率 (%)	49.8	51.7	48.3	54.5	52.6
自己資本比率 (%)	88.4	87.8	89.1	88.9	85.9
1株当たり純資産額 (円)	1,823.7	1,717.6	1,701.5	1,712.3	1,749.0
1株当たり当期(四半期)純利益又は純損失 (△) (円)	5.3	△115.5	△7.4	27.7	50.4
1株当たり(中間)配当額 (円)	20.00	20.00	20.00	20.00	10.00
配当性向 (%)	374.5	—	—	72.3	19.8

※ 第55期・第56期の配当性向について
当期純損失であるため算定しておりません。

四半期財務諸表

(単位：千円未満切捨て)

科目	期別	前第2四半期累計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年12月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年12月31日)	前期 (自平成22年7月1日 至平成23年6月30日)
売上高		3,425,693	3,644,523	6,851,295
売上原価		2,489,624	2,640,113	4,988,858
売上総利益		936,068	1,004,410	1,862,437
販売費及び一般管理費		901,601	863,315	1,823,377
営業利益		34,466	141,094	39,059
営業外収益		28,466	34,068	54,763
営業外費用		—	—	14,705
経常利益		62,932	175,162	79,118
特別利益		—	—	—
特別損失		1,786	483	2,938
税引前四半期(当期)純利益		61,145	174,679	76,180
法人税、住民税及び事業税		1,234	1,234	2,468
法人税等調整額		△ 9	△ 27,628	△ 36,649
四半期(当期)純利益		59,921	201,073	110,361

四半期 損益計算書

Point 営業利益

売上高の増加に伴い売上総利益が増加したことに加え、販売費及び一般管理費の圧縮に努めた結果、前年同期比106百万円の増益となりました。

Point 法人税等調整額

当期の業績の進捗状況及び今後の業績見通しを踏まえ、繰延税金資産を27百万円追加計上いたしました。

四半期財務諸表

四半期 貸借対照表

Point 現金及び預金

前期末に比べ202百万円の増加となりました。
主な理由はキャッシュ・フローのコメントをご参照ください。

(単位：千円未満切捨て)

科目	期別	前 期 (平成23年6月30日現在)	当第2四半期 (平成23年12月31日現在)
(資産の部)			
流動資産			
現金及び預金		1,605,164	1,807,251
受取手形及び売掛金		1,694,990	1,950,382
有価証券		101,420	100,710
商品		471,535	480,845
その他		86,605	118,437
貸倒引当金	△	3,909	△ 4,104
流動資産合計		3,955,806	4,453,522
固定資産			
有形固定資産			
建物（純額）		1,110,544	1,082,150
工具、器具及び備品（純額）		97,530	102,638
土地		1,027,767	1,027,767
その他（純額）		1,183	2,610
有形固定資産合計		2,237,026	2,215,167
無形固定資産			
投資その他の資産		21,201	17,026
投資有価証券		1,357,473	1,334,033
その他		116,921	102,533
貸倒引当金	△	7,144	△ 292
投資その他の資産合計		1,467,251	1,436,273
固定資産合計		3,725,478	3,668,467
資産合計		7,681,284	8,121,990

(単位：千円未満切捨て)

科目	期別	前 期 (平成23年6月30日現在)	当第2四半期 (平成23年12月31日現在)
(負債の部)			
流動負債			
買掛金		349,571	466,069
未払法人税等		5,554	4,364
その他		129,901	306,063
流動負債合計		485,027	776,497
固定負債			
退職給付引当金		189,584	194,658
役員退職慰労引当金		167,762	171,887
その他		6,896	668
固定負債合計		364,244	367,215
負債合計		849,271	1,143,712
(純資産の部)			
株主資本			
資本金		300,745	300,745
資本剰余金		273,245	273,245
利益剰余金		6,308,743	6,469,917
自己株式	△	64,475	△ 64,475
株主資本合計		6,818,257	6,979,432
評価・換算差額等			
その他有価証券評価差額金		13,756	△ 1,153
評価・換算差額等合計		13,756	△ 1,153
純資産合計		6,832,013	6,978,278
負債純資産合計		7,681,284	8,121,990

四半期財務諸表

(単位：千円未満切捨て)

四半期 キャッシュ・ フロー計算書

科目	期別	前第2四半期累計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年12月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年12月31日)	前期 (自平成22年7月1日 至平成23年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△	84,191	79,175	139,498
投資活動によるキャッシュ・フロー	△	150,561	162,864	△ 324,574
財務活動によるキャッシュ・フロー	△	40,470	△ 39,952	△ 80,332
現金及び現金同等物の増加(△減少)額	△	275,223	202,086	△ 265,407
現金及び現金同等物の期首残高		1,870,572	1,605,164	1,870,572
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高		1,595,349	1,807,251	1,605,164

Point

営業活動によるキャッシュ・フロー

主な資金増加要因は、税引前四半期純利益174百万円、資金流出ではない減価償却費70百万円、仕入債務の増加額114百万円等によるものです。また主な資金減少要因は、売上債権の増加額248百万円等によるものです。

Point

投資活動によるキャッシュ・フロー

主な資金増加要因は、投資有価証券の償還による収入200百万円等によるものです。また主な資金減少要因は、商品開発の金型など有形固定資産の取得による支出40百万円等によるものです。

Point

財務活動によるキャッシュ・フロー 配当金の支払額39百万円によるものです。

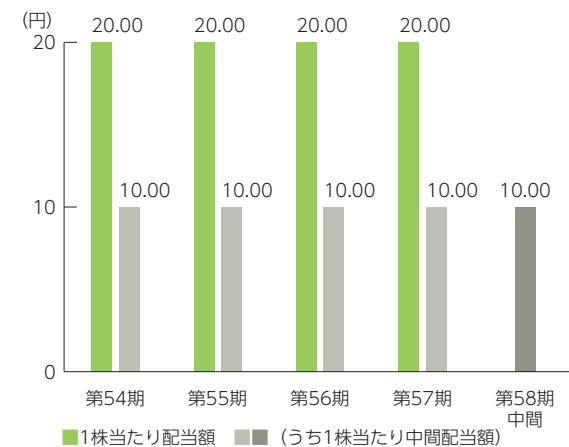
配当状況

● 配当性向



(注) 第55期・第56期について
当期純損失であるため、配当性向は算定しておりません。

● 1株当たり配当額



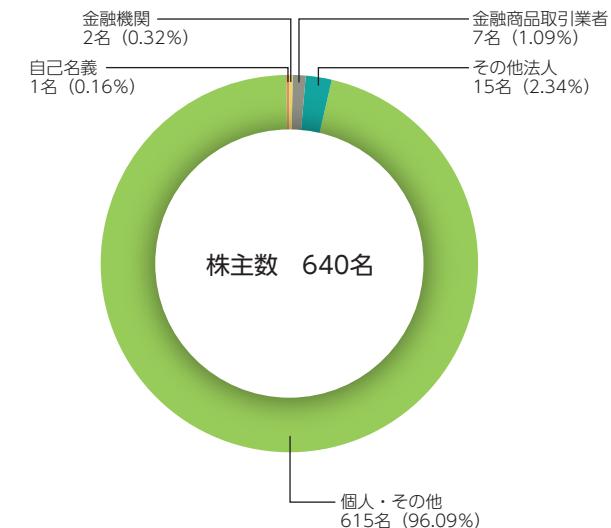
株式の概要

● 株式状況 (平成23年12月31日現在)

発行可能株式総数	15,420,000株
発行済株式の総数	4,105,000株
株主数	640名
大株主(上位10名)	

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	持株比率(%)
高橋不動産株式会社	985,440	24.00
高橋良一	600,000	14.61
アトムリビテック従業員持株会	340,160	8.28
アトムリビテック取引先持株会	276,400	6.73
高橋快一郎	190,000	4.62
高橋寿子	157,000	3.82
大塚李代	137,000	3.33
アトムリビテック株式会社	115,117	2.80
佐藤俊夫	90,600	2.20
磯川産業株式会社	81,500	1.98

● 株主の所有者別分布状況 (平成23年12月31日現在)



株価および出来高の推移



会社概要 (平成23年12月31日現在)

商号	アトムリビンテック株式会社
創業	明治36年
設立	昭和29年10月
事業内容	家具用金物・建具用金物・陳列用金物等、 住まいの金物全般の企画・開発・販売
主要取引銀行	株式会社みずほ銀行 株式会社三菱東京UFJ銀行
従業員数	111名 (嘱託3名・パート16名含まず)

役員 (平成23年12月31日現在)

代表取締役社長	高橋 良一
取締役	後藤 厚
取締役	神原 誠
取締役	根本 博
常勤監査役	馬場 敏雄
監査役	岸田 充雄
監査役	輿水 洋一

□ ホームページも是非ご覧ください。
<http://www.atomlt.com/>

企業・財務情報をはじめ商品情報・オンラインショップなど、
様々なコンテンツをご用意しております。ぜひご覧ください。

事業所一覧 (平成23年12月31日現在)

本社	〒110-8680 東京都台東区入谷1丁目27番4号	TEL 03-3876-0600
アトムC/Dセンター (商品本部)	〒340-0022 埼玉県草加市瀬崎4丁目15番19号	TEL 048-922-5551
札幌営業所	〒060-0907 北海道札幌市東区北七条東3丁目28番32号 井門札幌東ビル1F	TEL 011-748-3113
前橋営業所	〒371-0805 群馬県前橋市南町3丁目72番7号	TEL 027-223-2651
広島営業所	〒733-0031 広島県広島市西区観音町16番地9	TEL 082-291-4235
アトムCSタワー	〒105-0004 東京都港区新橋4丁目31番5号 オンデマンド事業部 ショップ&ショールーム 亜吐夢金物館	TEL 03-3437-3673 TEL 03-3437-3440
アトム住まいの金物ギャラリー大阪事業所	〒564-0052 大阪府吹田市広芝町18番地5	TEL 06-6821-7281

関連会社 (平成23年12月31日現在)

上海阿童木建材商貿有限公司 (中華人民共和国)



シリーズ企画 アトムCSタワー最前線 SPECIAL ISSUE

クリエイティブ・スペース

GA-LA-BO

「アトムCSタワー」では、近未来の住空間づくりをテーマに、実験的なギャラリーとして独自のアプローチでその答えを探ってまいりました。こうしたコンセプトに基づき、2011年7月から、新たな試みとして5階シーンメイクフロアを中心に、「GA-LA-BO」がスタートいたしました。「GA-LA-BO」とは、「ギャラリー」と「ラボラトリー」をミックスした造語です。さまざまなジャンルのアーティストや職人のセンスと技術を結集し、これまでにない、まったく新しい空間が広がります。

5階のシーンメイクフロアは、「5f+」の異色クリエイターたちによるコラボレーション空間です。「5f+」は、高い技術と能力を備えた若者と、キャリアを積み重ねてきたクリエイターとがユニットとなり、新たな道を開拓しつつ、その才能を発揮できる舞台として誕生いたしました。「アトムCSタワー」は、コラボした彼等が、国境を越えて受け入れられるような企画開発を発表する、新たな拠点となることを目指しています。

また、6階のエキシビジョンフロアは、当社がセレクトしたユニークな家具とインテリアを常設展示しています。さらに、7階のアルティザンフロアでは、伝統工芸職人の写真とともに、職人やアーティストの作品とインテリアのご提案をご覧ください。

- アトムCSタワー 東京都港区新橋4-31-5
- 営業時間/月曜日～金曜日 10:00～18:00
- 休館日/土・日曜日 祝日 (第1・第3土曜日は営業)



7F GA-LA-BO
アルティザンフロア



6F GA-LA-BO
エキシビジョンフロア



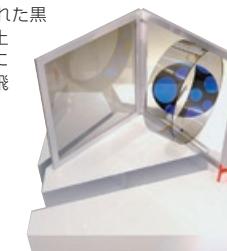
5F GA-LA-BO
シーンメイクフロア



↑中庭のある住空間。光学フィルムが2枚重なった部分が暗く不透明になって見えます



↑フィルムによって視覚的に作られた黒い水面。その上を金魚が自由に泳ぎ回る「空飛ぶ金魚」



↑風鈴は風によって音が生まれますが、こちらは風によって色が生まれる「風彩」。フィルムの重なり方によって色が様々に変化します